

バリューデザインアカデミー  
第3期生 募集要項

VE +  $\alpha$  の  
プロフェッショナルをつくる  
— 組織の実行成功確率を高める投資 —

1

なぜ、いまCVSが求められるのか

2

VDAカリキュラムの全体像

3

実績

4

実施要項

なぜ今

CVSが求められるのか

01

# 企業が直面している構造的問題

不確実性と複雑性が増す経営環境において、問題解決の難度が増している。

部門最適は進むが、全体最適にならない

技術・コスト・品質・スピードのトレードオフが複雑化している

分野を横断して最適解を見出す必要がある

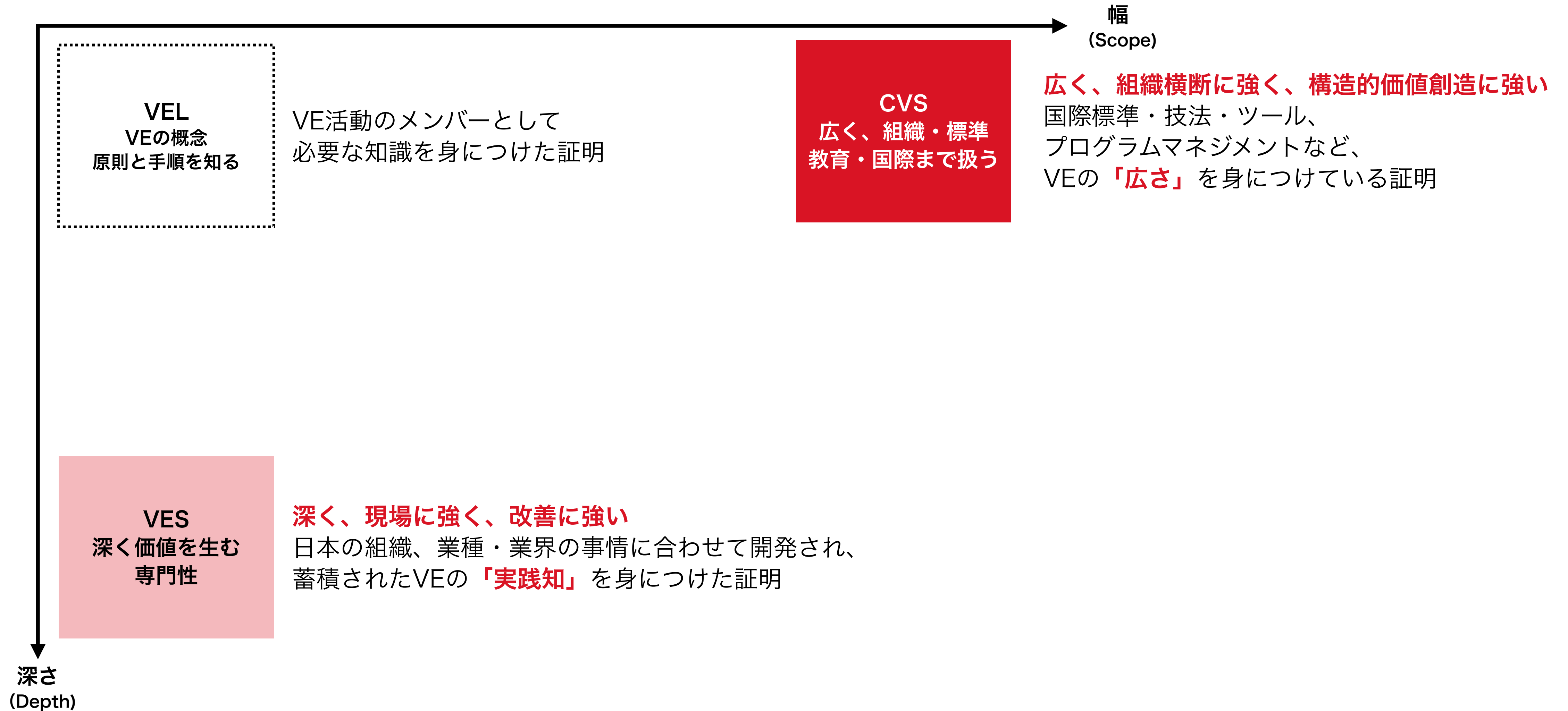
合意形成と意思決定に時間がかかる

「深さ」と「幅」をあわせ持ち、意思決定をリードできる人材の必要性



# VE資格の構造

- VESは「深さ」、CVSは「広さ」
- 両者には上下関係はなく、スコープが異なる



# 深さのVES × 幅のCVS

VES（日本の知識体系）＝問題解決の深さ、CVS（国際標準体系）＝問題解決の広さ

## VES = 深さ

### 主要領域（深さ）

- ・ 製造業・建設業・サービス業・行政
- ・ 製品・設備・工事・業務プロセス
- ・ 機能分析の精度
- ・ 原価・代替案・改善技法
- ・ 現場で成果を出すための実践知

### 特徴

個別領域に深い  
現場改善に強い  
技術・モノ・工程に強い  
日本企業の文化に最適化されている  
＝「現場で価値を出すための“深さ”の体系」

×

## CVS = 幅

### 主要領域（広さ）

- ・ 企画→設計→実行→運用（ライフサイクル全体）
- ・ 多部門・多職能が関わる価値創造
- ・ 要求定義・価値の構造化
- ・ 組織横断の合意形成
- ・ 意思決定プロセスの透明化
- ・ ファシリテーション

### 特徴

スコープが広い  
組織・構造・意思決定に強い  
複雑性の高いプロジェクトに対応  
＝「価値創造を“構造として扱う”ための幅の体系」

**VES × CVS = 「深さ × 幅」を持つプロフェッショナル**



# MBAとCVSの役割のちがい — 経営を理解する力と、経営を動かす力 —

多くの企業課題は、戦略そのものよりも「実行段階」で発生している。

CVSは、実行の成功確率を高める存在。

## MBA

経営を理解できる人材

理論と体系的理解

戦略の質を高める

主に個人に帰属

300万円～600万円（国内）  
フルタイム1年～2年

育成する人材

強み

成果への貢献

経験と知識

費用 / 機会費用

## CVS

経営と現場をつなぐ人材

意思決定と実行の推進

戦略の実行の成功確率を高める

組織に浸透する

年66万円  
業務と並行（月2日～3日）

**CVS育成は、少ない投資で経営の「実行成功確率を高める」実装型投資**



# CVS育成のROI（投資対効果）

CVS育成は「成功確率」を引き上げる投資. 保守的に見積もっても、投資額を上回る損失回避効果が期待できる

保守的な仮定に基づく試算例：

意思決定のスピード向上

マネジャー5名 × 月2時間 → 単価1万円 × 10時間 → **年間120万円**

プロジェクト成功率の向上

PJ失敗率 30% を25%に改善 → 1億円規模PJ → **損失回避500万円**

調達費低減

年間調達費50億円の1%を改善 → **年間5000万円**

※保守的な仮定に基づく試算例

外部コンサル代替

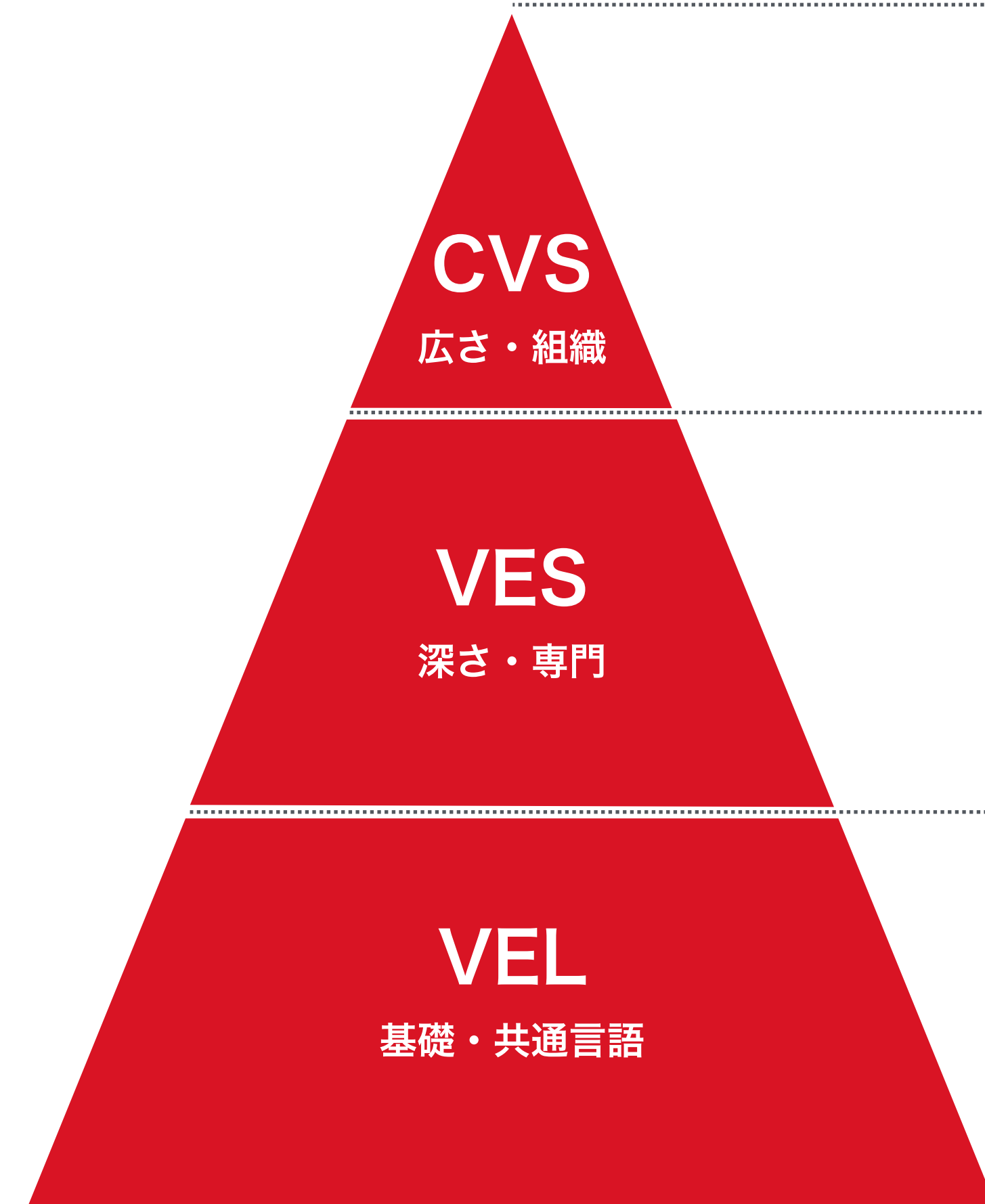
外注1案件300万円 → 内製化により削減 → **1件で数年分を回収**

**CVS育成は、投資額を大きく上回るROIが見込める投資**



# 人材の集合から「組織能力」へ

VEL・VES・CVSという人材層を意図的に持ち、それを駆動できる人材を育てることでVEは「組織OS」となる。  
CVSはこの人材層を駆動する「組織ドライバ」となる存在。



広さ・組織横断のレイヤ  
組織横断での価値の設計・統合  
要求定義・価値構造・意思決定をつなぐ  
→人材層のトップであり、組織の憧れとなる存在

深さ・専門のレイヤ  
現場・専門領域での価値を生み出す  
技術・工程・業務に根ざした改善を実行  
→専門領域を武器に現場を駆動する存在

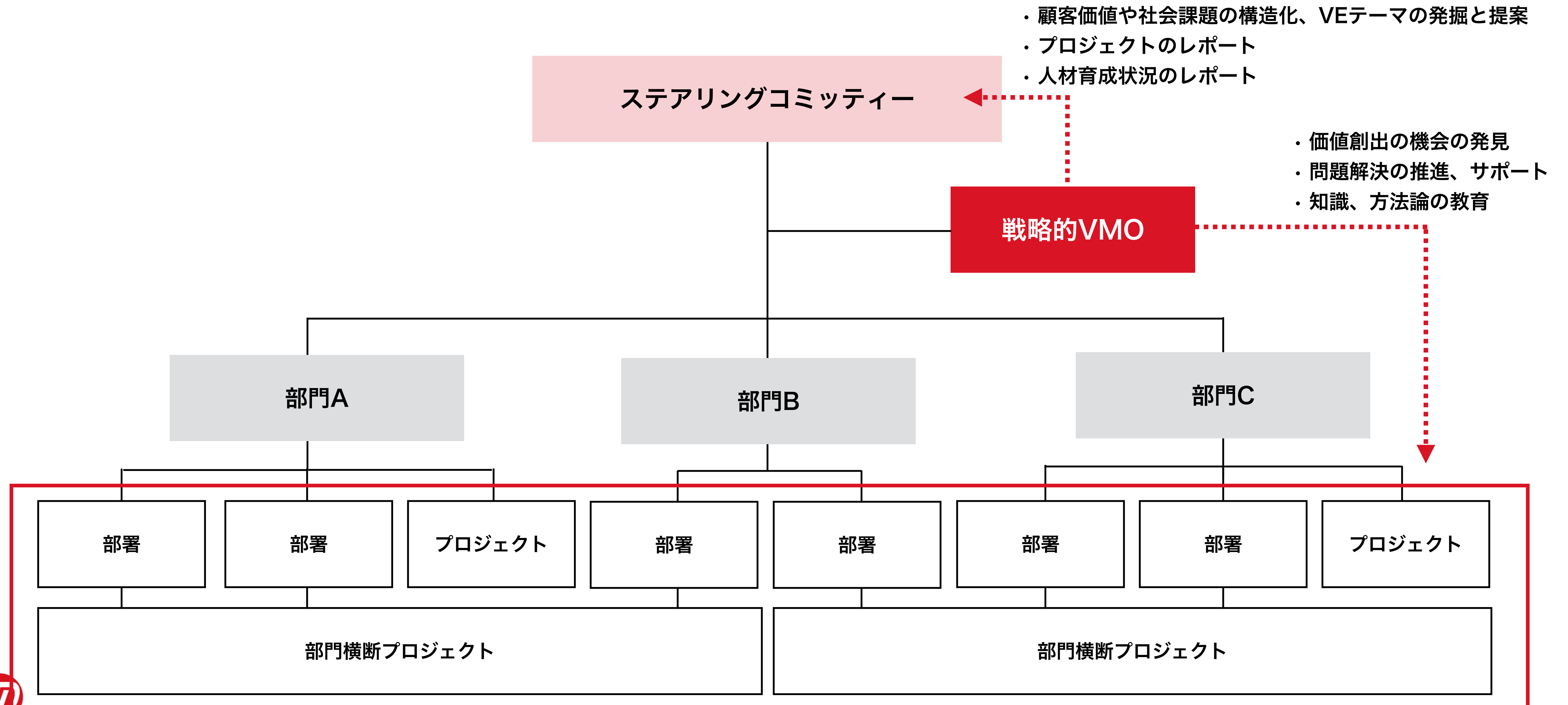
基礎・共通言語のレイヤ  
VEの共通言語・原則・基本思考を理解  
VE活動のメンバーとして機能  
→仕事の「OS」としての機能思考を手に入れた人材

CVSは「組織OSのドライバ人材」となる



# CVS = 組織OSを実装する「戦略的VMO」人材

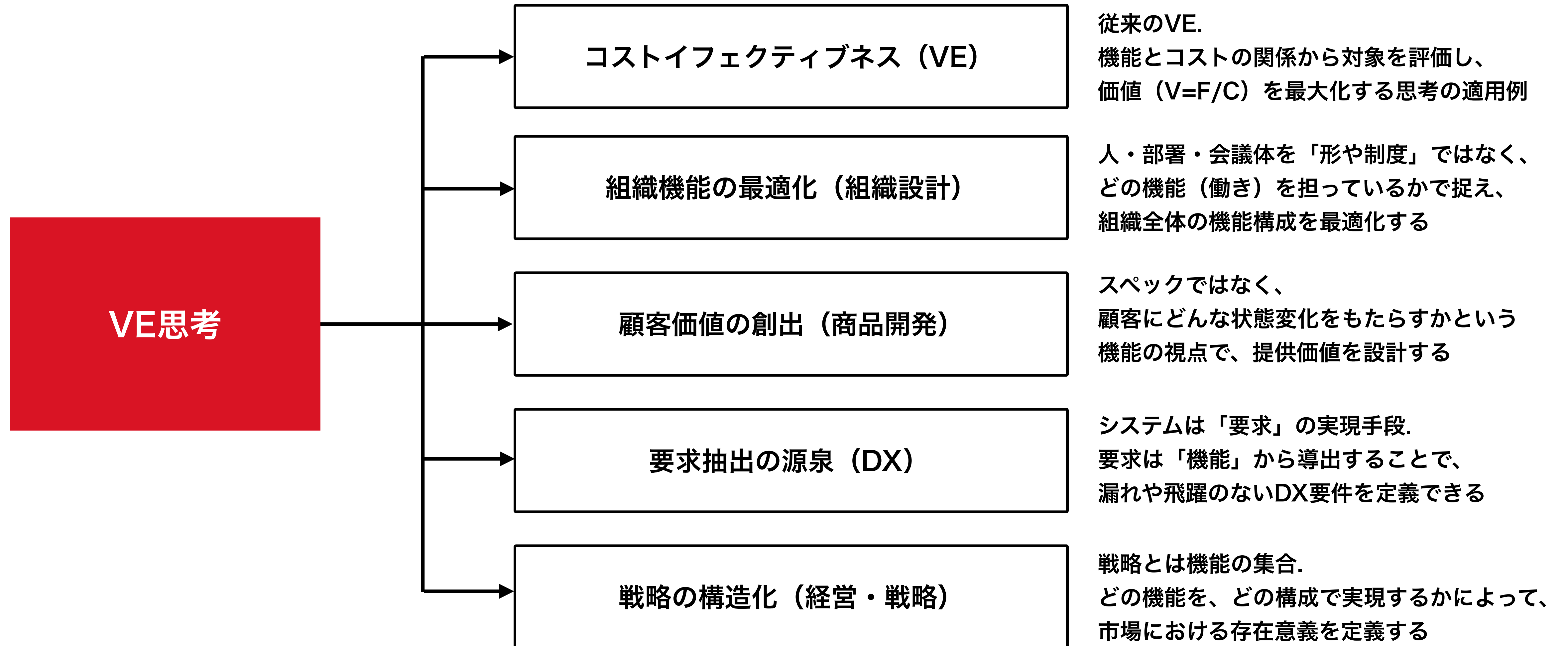
戦略的VMO (= Value Management Office) は、価値実現の機会を発見し、テーマを集め・拾い、そして実行を加速する機能をもつ。CVSは、戦略的VMOをリードし、組織の実行成功確率を高める中核人材となる。



# VE思考は適用分野を限定しない

VEの本質は「機能で世界をとらえる」という思考態度であり、あらゆる分野に適用可能。

CVSは組織と分野を横断して、価値向上の機会を発見し、意思決定と実行をファシリテートする人材。

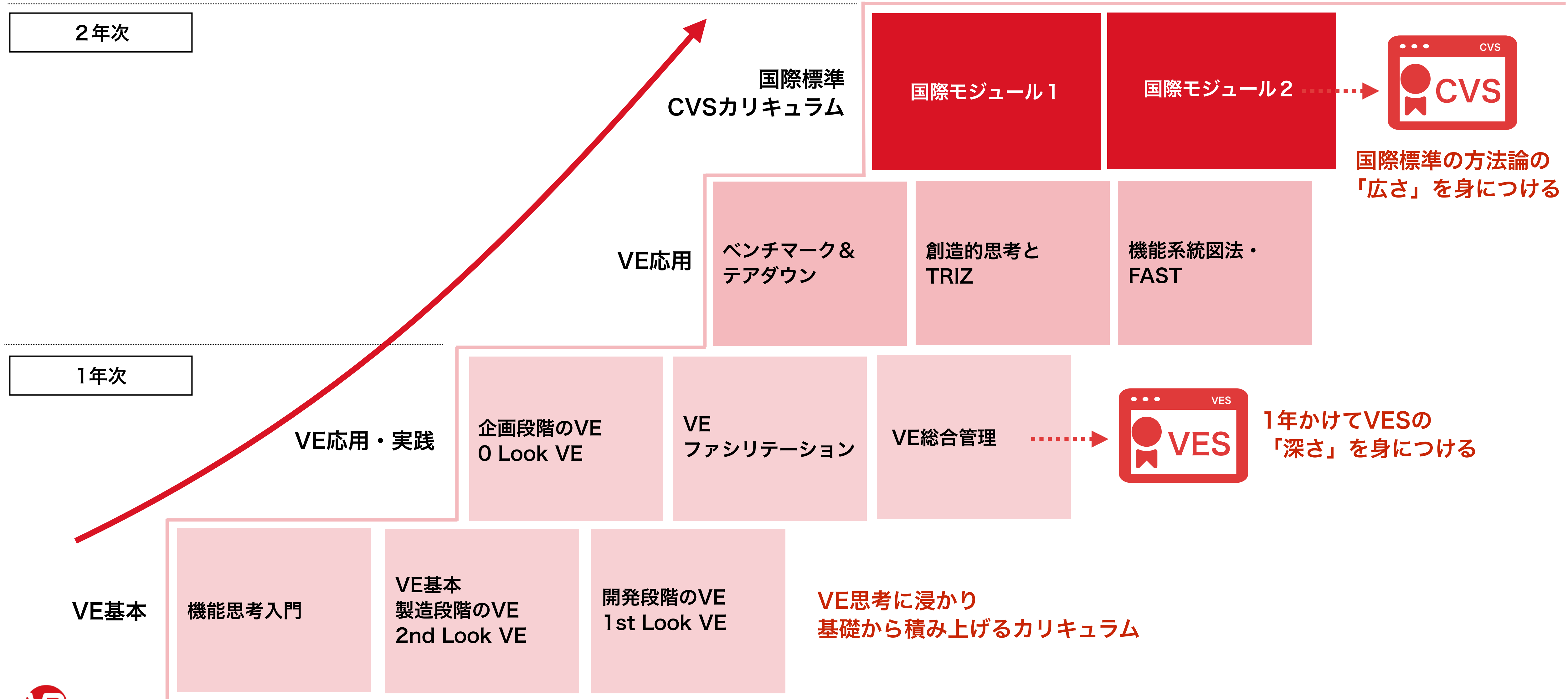


# VDAカリキュラムの 全体像

# 02

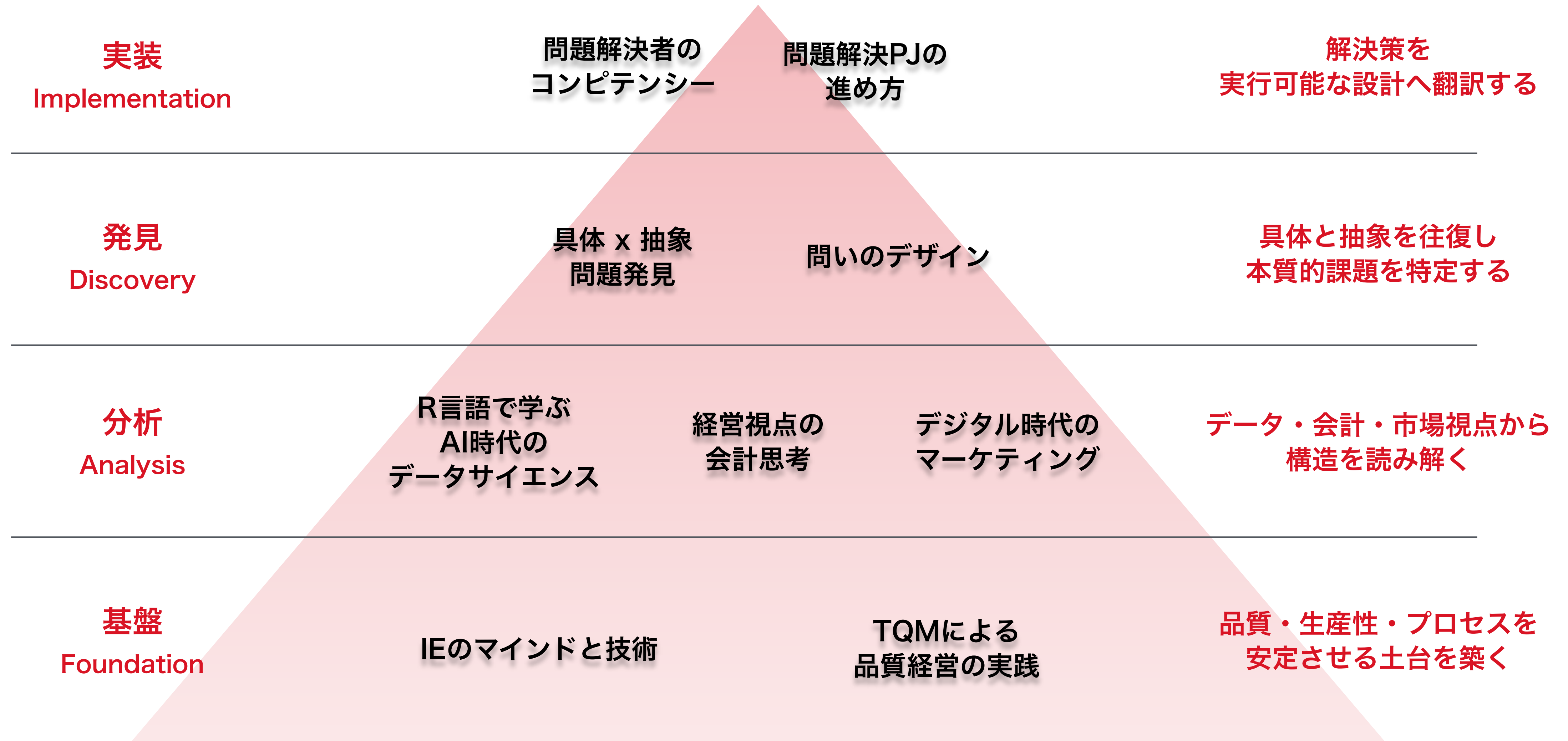
# VE講座体系 (CVS資格制度改定対応)

VEの基本から応用・管理までを体系的・網羅的に学ぶことで、VEプロフェッショナルに成長する



# +α講座体系

VEは「+α」をともなうことで、技法から「実装力」に進化する。



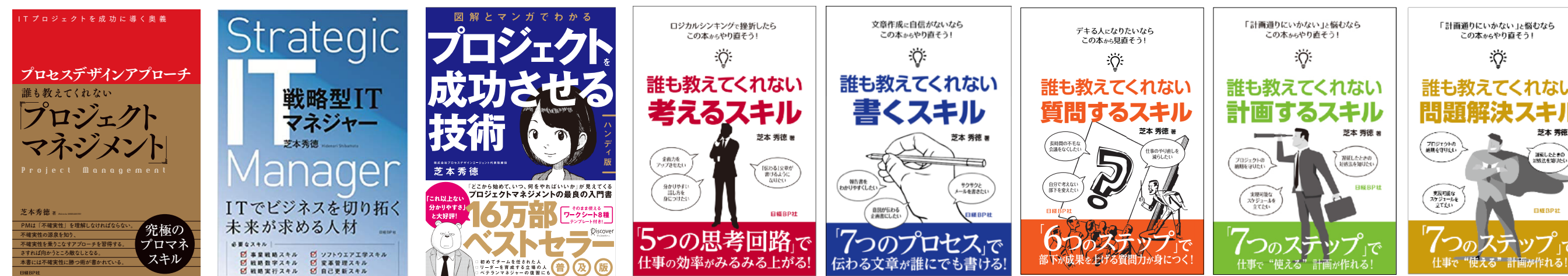


## 芝本秀徳

状態を起点に、組織の実行成功確率を高める構造を設計する

日本バリューエンジニアリング協会  
/バリューデザインアカデミー アカデミー長  
/国際対応プロジェクト チームリーダー  
株式会社プロセスデザインエージェント代表取締役  
CVS

- ・ IT・製造領域で商品企画～事業立上げを主導
- ・ 戦略設計から実行ファシリテーションまでを横断
- ・ 組織の実行成功確率を高める構造設計を専門とする



## 澤口 学

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科 教授  
東北大学大学院工学研究科 客員教授  
日本VE協会参与、CVS-Life

- ・ NPO法人日本TRIZ協会副理事長
- ・ 長年、製造企業のR&D・設計部門を対象に実践的な次世代事業戦略、価値創造設計の方法論を開発。
- ・ 専門はVE、TRIZ、イノベーション・マネジメントなど。
- ・ 著書  
『はじめての企画・開発メソッド ～0Look VE/1st Look VE～』（同友館）  
『不利益の実装 - バリュー・エンジニアリングにおける新しい価値』（近代科学社Digital）  
『日本式モノづくり工学入門 ～イノベーション創造型VE/TRIZ』（同友館）など。



# VE講座 講師陣

現場で成果を出し続ける「現役」講師陣



## 芝本 秀徳

バリューデザインアカデミー アカデミー長  
株式会社プロセスデザインエージェント 代表取締役  
/CVS

IT・製造分野で商品企画～事業立上げを主導  
戦略設計・DX推進・実行ファシリテーションを支援  
価値創出を可能にする「構造」設計の専門家



## 伊藤 学

東京ガス株式会社 資材部調達企画グループ  
/CVS

ヤマハ発動機で開発購買・海外ソーシングを担当  
二桁%のコスト削減を実現  
調達×VEを専門とする実践型VEr.



## 赤城 弘一

立命館大学 客員教授/  
株式会社赤城エンジニアリング 代表取締役 /CVS  
重工メーカーにて航空・ガスタービン開発を主導  
設計～製造～調達を横断し全社コスト改革を推進  
AI・ARによる技術知の形式知化を研究



## 内田 佳代

東京科学大学 非常勤講師/  
株式会社ETERNAL SMILE 取締役 /CVS  
医療分野を中心にVE×QCによる業務改善を実践  
現場理解×VE（構造化）による改善設計を専門  
サービス設計・経営工学を基盤に活動領域を拡大

# +α講師陣——各分野の第一人者が、あなたの問題解決力を引き上げる

コンピテンシー/PJの進め方



芝本秀徳

バリューデザインアカデミー  
アカデミー長/CSV

具体と抽象による問題発見の技術



細谷功

著述家、ビジネスコンサルタント  
『地頭力』の先駆者

経営視点の会計思考



吉澤大

吉澤税務会計事務所代表  
ファイナンスの用心棒

AI時代のデータサイエンス



瀬下大輔

株式会社すうがくぶんか代表  
統計 x ビジネスのプロ

問いのデザイン



塩瀬隆之

京都大学総合博物館  
准教授

デジタル時代のマーケティング



片岡亮太

株式会社KATAOKA DESIGN MARKETING  
代表取締役

TQMによる品質経営の実践



金子雅明

東海大学 情報通信学部  
情報通信学科 教授

IEのマインドと技術



松野思迪

立正大学経営学部経営学科  
専任講師



実績

03

# 資格合格実績

---

CVS受験者の**合格率100% (5/5)**。  
VES取得者から継続的にCVS合格者を輩出。

2024年度 VES合格 **8**名（既存保持者含め10名）

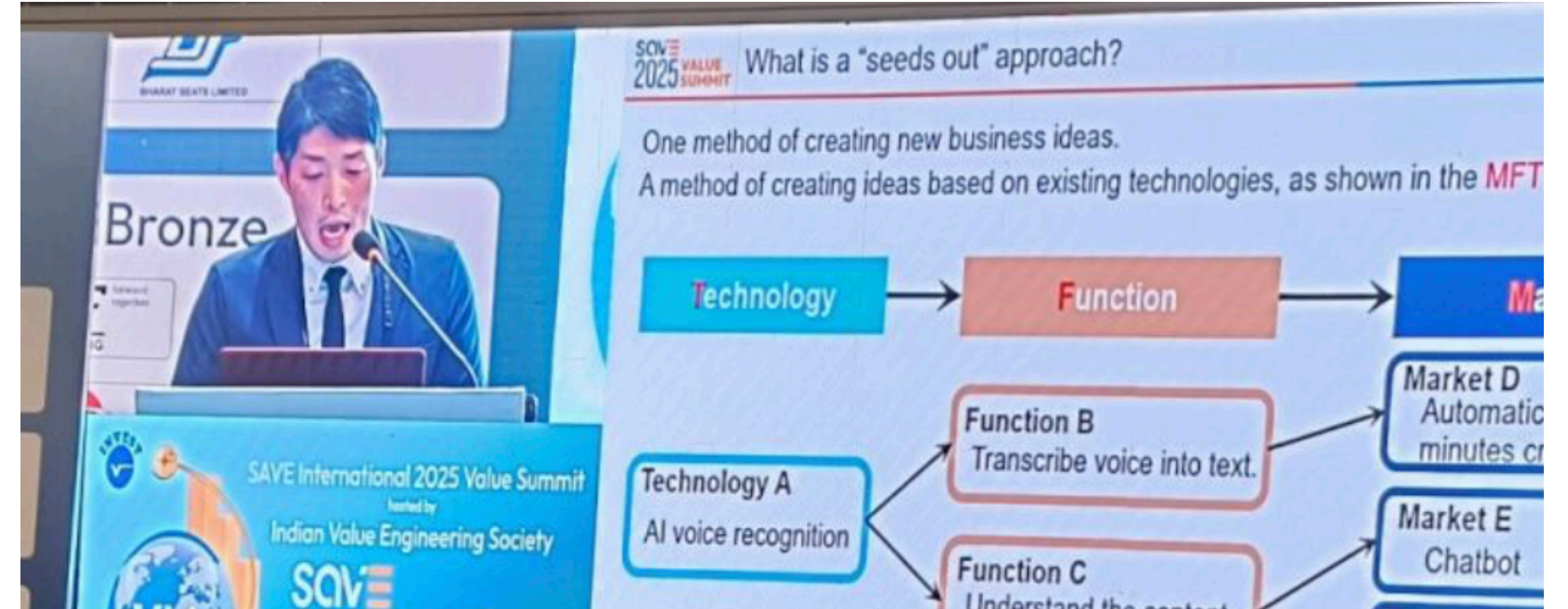
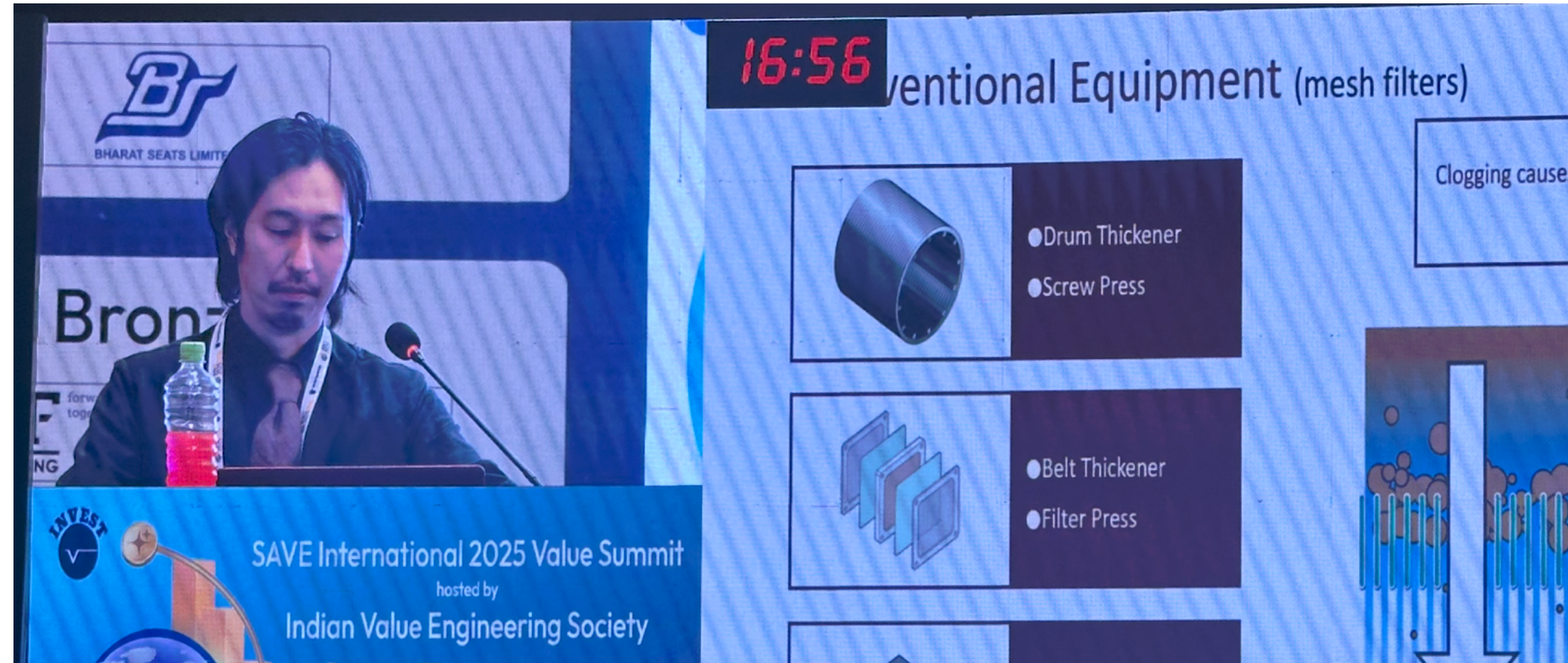
---

2025年度 CVS合格 **5**名（受験者全員合格）



# Value Summit 2025 INVEST (インド)

VDAメンバー2名が国際大会で論文発表。



総監修・澤口教授がパネル参加。

現地VEコミュニティ・SAVE Internationalとのネットワークを構築。



# 香港VM協会国際カンファレンス 論文発表

VDAメンバーが国際大会で論文発表. 現地VEコミュニティから賞賛を浴びた.



# バリューカンファレンス2026 論文発表

VDAメンバー2名が論文発表. うち1名が「ベストプレゼンテーション賞」を受賞.

## 顧客と組織の視点を用いた機能の分類方法の提案 — 定量ポンプの構成部品での検証



VE実施手順通りに活動することは、導入段階の企業では難しく時間がかかると思われがちである。今回、機能定義段階において、顧客と組織の両方の視点から機能の分類を行うことで、機能評価・代替案作成段階の活動にメリハリをつけ、効率的に進めることができた事例を報告する。(再生時間：23分)

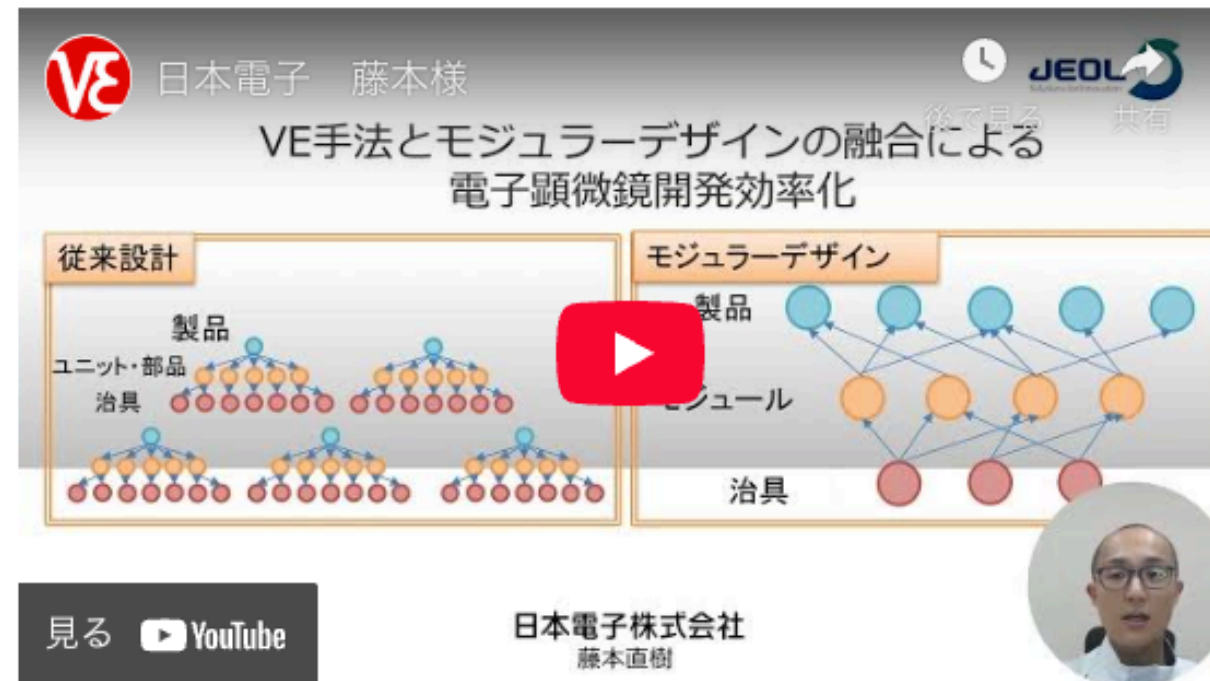


### 高島 ひかる 氏

株式会社タクミナ 技術本部技術管理室長 VES

1999年、株式会社タクミナに入社。お客様の要求に合わせてカスタマイズする特注製品の設計業務に従事。2007年VEと出会い、社内のVE導入に関わる。現在は技術管理室でVE・テアダウン定着に向けた活動やVEの機能本位思考を技術伝承に活用する仕組み構築を進めている。

## VE手法とモジュラーデザインの融合による電子顕微鏡開発効率化



電子顕微鏡の多品種少量生産における設計工数増大とコスト増加の課題に対し、VE手法とモジュラーデザインを融合したアプローチを実践した。機能分析とバラエティ分析により不要なバリエーションを特定・削減し、部門間連携を強化。その結果、設計・組立工数とコストの大幅削減を実現し、開発効率向上の有効性を実証することができた。(再生時間：26分)



### 藤本 直樹 氏

日本電子株式会社 EM電気設計部 VES

2011年に日本電子株式会社に入社。以来、透過型電子顕微鏡 (TEM) の電気設計に従事し、特に排気系制御および自動搬送系制御を中心に担当。

近年は、設計効率化と標準化を目的にVE手法とモジュラーデザインの融合による開発プロセス改革に取り組んでいる。



# 実施要綱

044

# 受講料 (本校生)

---

1名 受講料 (年) **660,000**円 (税込) / 1名

---

2名 受講料 (年) **1,188,000**円 (税込) / 2名

---

募集人数 各期 **15**名限定

---



# オンライン聴講生

---

本校生のお申込みいただいた企業様のみお申し込み可。

全講座（特別講座を除く）の聴講可。講座ごとに異なる方の聴講も可（ただし、お持ちのアカウント数の人数内）

---

受講料（年） **99,000**円（税込） / 同時視聴 1 名

---

受講料（年） **165,000**円（税込） / 同時視聴 2 名まで

---

受講料（年） **220,000**円（税込） / 同時視聴 3 名～9 名まで

---

受講料（年） **330,000**円（税込） / 同時視聴 10 名～30 名まで

---

※30名以上は別途ご相談ください



# 3期生 スケジュール

※ 講師の都合などによりやむを得ず日程を変更することがあります。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次 2026.4 ～ 2027.3	VE講座		5/12 機能思考 入門		7/14 2nd Look VE	8/18 1st Look VE	9/30 VE総合管理 ※VDS共催 (オンラインのみ)			12/15 0 Look VE		2/9 ファシリテーシ ョン	3/16 VES 資格試験 /修了式
	+α	4/14 開講式 /コンピテンシ ー			6/23 TQM				10/5 問題発見	11/10 会計思考		1/19 データ サイエンス	
	オープン コンサル	4/21	5/26	6/16	7/28	8/25	9/15	10/27	11/24	12/22	1/26	2/25	/
2年次 2027.4 ～ 2028.3 (予定)	VE講座		ベンチマーキン グ・ テアダウン		CTC TRIZ	FAST		1B-1	1B-2	1B-3	2B-1	2B-2	2B-3
	+α	開講式 /コンピテンシ ー			IE		マーケティング		問いの デザイン		コンサル プロジェクト		卒業式

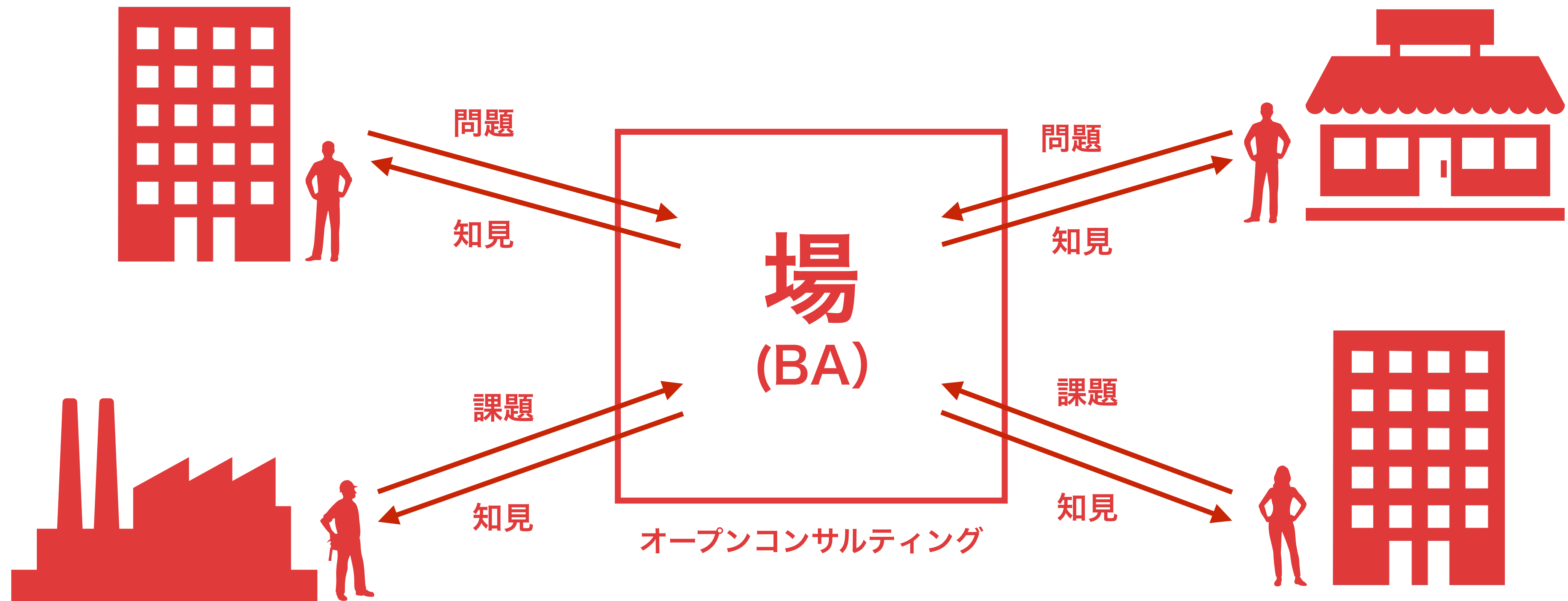
2年次のオープンコンサルスケジュールは1年次末に調整

※ VDS = バリューデザインスクール



# リアルな課題でVE+αを実践する『オープンコンサルティング』

VDAの最大の特徴の一つである、いわば「知のスパーリング」  
それぞれが現場でもっている問題を持ち寄って議論することにより「問題解決力を高める」場。



# 実施形態

- ・ VE講座は年次別を実施。ステップを踏んで学ぶことにより「理解を深める」
- ・ + $\alpha$ 講座は2年サイクル、1年次・2年次合同で実施。場を共有することで「仲間を増やす」
- ・ オープンコンサルティングは、1年次・2年次合同で実施。ケースと視点を増やすことで「問題解決力を高める」

VE講座	年次別 (一部、合同開催)
+ $\alpha$ 講座	1年次・2年次合同 (2年サイクル)
オープンコンサルティング	1年次・2年次合同

# 参加条件

	本校生	本校生 (2年次編入)	オンライン聴講生
VE講座・プラスα講座	○ (現地参加、オンライン参加ともに可)	○ (現地参加、オンライン参加ともに可)	○ (オンライン参加のみ)
オープンコンサルティング	○	○	
特別講座への参加	○	○	
オンデマンド視聴	○	○	○ (VE講座・プラスα講座のみ)
電子テキスト	○	○	○
演習参加	○	○	
質問	○	○	
CVS受験要件認定	○	2年次に受講した時間を充当	



バリューデザインアカデミーのビジョン

## VE+ $\alpha$ のプロフェッショナルをつくる

未来が現在の延長線上にない時代となり、

これまでメソドロジー（方法論）として活用されてきたVEは、

思考プロセスとしての役割がもとめられています。

思考プロセスとしてのVEは、

ハードウェア、ソフトウェア、サービス、ピープルビジネスなど、

あらゆる分野に入り込み、その価値を向上するポテンシャルを秘めています。

VEがその機能を発揮するには、VE+  $\alpha$  の知識と能力をもった人材が必要です。

組織に、社会に、世界にインパクトを創出し、よりよい明日を作り出す人材を生み出す。

それがバリューデザインアカデミーの使命です。





**Value Design Academy**